

2 - 2 重点事業評価

事業名
電子図書館サービスの充実

(1) 事業の概要

- 対象
図書館に直接来館する利用者だけではなく、遠隔地で来館が困難な利用者
- 意図・目的
当館独自の資料データベースの更なる拡充を行い、より高度な利用者ニーズに応えるとともに、県立図書館のサービスを、いつでも、どこでも利用できるような電子図書館の環境整備に努める。
- 具体的取組の概要
 - ① 県立図書館のホームページを利用して、資料の検索や貸出の予約・延長などを行う新時代の図書館サービスの充実を図り、「マイページ」の登録人数（電子図書館の実質的な利用者）を増加させる。
 - ② 『新潟県史』の文化財編及び年表のテキスト化、県内市町村立図書館等で所蔵している貴重資料のデジタル化を行う。（「越後佐渡デジタルライブラリー」第二次事業）

(2) 指標（本年度の目標）

項目（指標）	本年度の達成目標（数値）	成果
ホームページの「マイページ」登録人数	5,000人	7,987人 (達成率160%)

(3) 事業評価（自己評価）

自己評価	A	「マイページ」登録者の増加は著しく、電子図書館へのニーズが高いと想定される。
------	---	--

- A 目標が十分に達成された。 B 目標がある程度達成された。
 C 目標の達成が不十分である。 D 目標を達成することがほとんどできなかった。

項目	項目の解説	状況
必要性	利用者ニーズ又は図書館の使命や方針に照らして、妥当か。	今後、電子図書館サービスは図書館事業の重要な柱の一つになっていくと認識している。
有効性	期待される成果と実際の成果との関係。実績の向上がみられたか。	利用カードの有効登録者数（23,700人）の約3分の1の7,987人という結果となり、十分な成果があったと考えられる。
効率性	事業計画に対する内容や量、業務の運び方、進捗管理の妥当性等。	振興財団の補助金に採択され、計画的に「越後佐渡デジタルライブラリー」の充実が図られた。また、3月から音楽配信サービス「音楽ライブラリー」が本格スタートし、電子図書館サービスの利用の増加が見込まれる。

(4) 次年度の展開

方向性・問題点・改善点など
電子図書館サービスは、これからの図書館事業の重要課題であるので、引き続きコンテンツの充実を図っていきたい。今後急速な普及が見込まれる電子書籍の収集と提供についても、継続的に検討していくことにする。

(5) 図書館協議会意見

本事業についても、目標をはるかに上回る成果を上げたことに対して、協議会として高く評価している。本事業の意義については、今後ますます発展が期待されるサービスであることから、さらに積極的に進めるべきである、との意見があった。さらに、本県の地理的特性上、県下全域に対する通常の図書館サービスが難しいことから、これまでのサービスの欠点を補うサービスとして、本事業の意義を評価する意見があった。

一方、登録人数が評価指標とされている「マイページ」については、本の予約や貸出期限の延長など、従来の図書館サービスの充実につながるサービスであって、その充実は必ずしも他の電子図書館サービスの充実にはつながらないのではないか、との意見があった。

「マイページ」以外の電子図書館サービスの中では、貴重資料のデジタル化に期待する意見が複数あった。特に、「越後佐渡デジタルライブラリー」については、複数の委員が高く評価し、今後の一層の充実を求めている。

「音楽ライブラリー」に対する評価も肯定的である。同サービスに併せて、音楽や朗読等のCDの充実を求める意見があった。

そのほかに、次のような意見があった。

・本来の電子図書館につながるような画像、フルテキストの充実と、検索用データベースの開発は十分とは言えない。データベース類は画像やフルテキストに極力リンクさせ、また、統合検索を可能にすることによって、ディスカバリーツールへと進化させるべきである。